

研修カリキュラム・科目別担当教官名

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解 講師：鈴木正貴	2 時間	《講義内容》 ・研修過程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像を予めイメージできるようにします。 ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）、介護保険外サービスについて理解します。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解 講師：鈴木正貴	2 時間	《講義内容》 ・多様な居宅、施設サービスの現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。 ・講師による講義の他、視聴覚教材を活用して理解を深めます。 ・ケアプランからサービス提供にいたるまでの一連の業務と流れとチームアプローチ・多職種との連携、地域社会資源との連携等のイメージが持てるようにします。
	2 時間	《見学》 ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホームラポール三ツ沢）を見学し、介護職の具体的なイメージを持てるようにします。
合計	6 時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護(1) 講師：坂本文典	3 時間	《講義内容》 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考え、尊厳という概念を理解します。 ・介護分野における I C F を理解します。 ・Q O L の考え方の考え方を理解します。
①人権と尊厳を支える介護(2) 講師：坂本文典	3 時間	《講義内容》 ・ノーマライゼーションの考え方を理解します。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法について学習し、高齢者虐待に対する理解を深めます。 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業などの個人の権利を守る制度について学習します。 《演習内容》 ・受講者が身近で感じる偏見や差別について意見を出し合い発表します。高齢者や障害者とその家族がどのような偏見や差別を受けているか講師からは具体例を挙げ、利用者の尊厳を守ることに関するグループ討議を行います。

②自立に向けた介護 講師：網屋正子	3時間	《講義内容》 ・利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援や介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念を理解します。 ・利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアを理解します。 《演習内容》 ・グループに別れ、「残存能力の活用・介護予防は寝たきり予防」という事例に基づく討議を行います。
合計	9時間	
3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携 講師：田中洋美	1.5時間	《講義内容》 ・介護の目指す基本的なものは何かを概説できるようにします。 ・家族による介護と専門職による介護の違いを理解します。 ・介護に関わる多職種を理解すると共に、それらとの連携を理解します。 《演習内容》 ・「家族による介護と専門職による介護の違い」について、事例に基づきグループ討議を行います。
②介護職の職業倫理 講師：田中洋美	1.5時間	《講義内容》 ・介護職の職業倫理の実用性を理解すると共に、介護職が利用者や家族等との関わる際の留意点について理解します。 ・介護職としての社会的責任について理解します。 ・プライバシーの保護や尊重について学習します。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント 講師：田中洋美	1.5時間	《講義内容》 ・介護の現場での典型的な事故や感染、介護における主要なリスクについて学びます。 《演習内容》 ・「ノロウィルスの感染」を事例に、リスクマネジメントについて討議を行います。
④介護職の安全 講師：田中洋美	1.5時間	《講義内容》 ・介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレスを学び、それらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方についても学習します。
合計	6時間	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度 講師：伊藤雅子	3時間	《講義内容》 ・介護保険制度創設の背景および目的、動向を理解します。 ・介護保険制度のしくみや制度を支える財源について、組織や団体の機能と役割など全体像を理解します。 ・地域包括ケアシステムの推進といった、介護保険制度の新しい方向性について、背景を含めて理解します。

②医療との連携とリハビリテーション 講師：伊藤雅子	3時間	《講義内容》 ・一定の要件のもとに、介護福祉士等が行う医療行為について学習し、理解を深めます。 ・施設における看護と介護の役割や連携を理解します。 ・リハビリテーションの理念について、理解を深めます。 《演習内容》 ・「医療との連携の大切さ」について、身の回りの気づきからグループ討議をします。
③障害者自立支援制度およびその他制度 講師：伊藤多恵子	3時間	《講義内容》 ・障害者福祉制度の理念を学びます。 ・障害者自立支援制度のしくみを理解します。 ・個人情報保護法や成年後見制度、日常生活自立支援事業などの個人の権利を守る制度の概要について学習します。
合計	9時間	
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション 講師：坂本文典	3時間	《講義内容》 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学びます。 ・共感、受容、傾聴的態度、気づき等の基本的なコミュニケーションを学びます。 ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由を理解し、相手の心身機能に合わせた配慮の必要性も理解します。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を理解します。 《演習内容》 ・2人1組で、事例に基づくロールプレイを行います。(傾聴、共感、視覚・聴覚障害、失語症、認知症)
②介護におけるチームのコミュニケーション 講師：坂本文典	3時間	《講義内容》 ・専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解し、記録における情報の共有化の必要性を理解します。 ・報告、連絡、相談の留意点を学びます。 ・コミュニケーションを促す環境について学び、重要性を理解します。 《演習内容》 ・各自具体的に、「より良い介護サービス」のための記録という目的をもって、事例に基づき記録を行い、発表する。
合計	6時間	
6 老化の理解 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常 講師：網屋正子	3時間	《講義内容》 ・加齢や老化に伴う心身の変化や特徴を理解します。 ・心身面、精神面などの変化に着目して心理的特徴を理解します。 《演習内容》 ・老化に伴う日常生活への影響を各自考え、発表しあいます。

②高齢者と健康 講師：網屋正子	3時間	《講義内容》 ・高齢者の疾病と生活上の留意点について学びます。	
合計	6時間		
7 認知症の理解(6時間)			
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法	
①認知症を取り巻く状況 講師：武田英子	1.5時間	《講義内容》 ・認知症ケアの理念を学びます。 ・できることに着目した認知症ケアについて学びます。	
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 講師：武田英子	1.5時間	《講義内容》 ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について学びます。	
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常 講師：武田英子	1.5時間	《講義内容》 ・認知症の方の身体・知的・精神障害について学ぶとともに、対応についても学びます。 《演習内容》 ・2人1組になり、認知症利用者との関わり方、対応方法のロールプレイを行なう。	
④家族への支援 講師：武田英子	1.5時間	《講義内容》 ・認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）について学びます。	
合計	6時間		
8 障害の理解（3時間）			
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法	
①障害の基礎的理解 講師：伊藤多恵子	1時間	《講義内容》 ・障害の概念とICFについて学びます。 ・障害福祉の基本的理念について理解を深めます。	
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎知識 講師：伊藤多恵子	1時間	《講義内容》 ・身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害について学びます。 ・高齢者介護との違いを意識して、それぞれの障害の介護上の留意点を理解します。	
③家族の心理、かかり支援の理解 講師：伊藤多恵子	1時間	《講義内容》 ・家族の障害の理解や障害の受容支援、介護負担の軽減について学びます。 《演習内容》 ・「障害受容」について、自分だったらどうなのか、各自でまとめて発表します。	
合計	3時間		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
学習 基本 知識 の	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的考え方 講師：影山順子	3時間	《講義内容》 ・ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除等、理念に基づく介護と法的根拠に基づく介護について学習します。

	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 講師：影山順子	3時間	《講義内容》 ・学習と記憶、感情と意欲の基礎知識について学びます。 ・自己概念と生きがいについて理解します。 ・こころの持ち方が行動に与える影響やからだの状況がこころに与える影響を理解します。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解(1) 講師：三枝公一	3時間	《講義内容》 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識を学びます。 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用について学びます。 ・中枢神経系と体性神経、自律神経と内部器官に関する基礎知識を学びます。 《演習内容》 ・検討事例(バイタルサイン)により、考えられる利用者の身体状況について、各自でまとめて発表する。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解(2) 講師：三枝公一	3時間	《講義内容》 ・こころとからだを一体的に捉えること、利用者の様子の普段との違いに気づく視点について学び、理解を深めます。
支援技術の講義・演習	④生活と家事 講師：田中洋美	3時間	《講義内容》 ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について学びます。 《演習内容》 ・グループワーク：本人能力や意欲を高めていく支援について、「掃除」「食事・調理」について具体例を話し合い、支援内容をグループでまとめる。 ・ロールプレイ：共に行う家事援助が利用者の自立支援につながり、主体性を引き出し、日々の暮らしに潤いが持てるようになる支援のあり方を考えながら、2人1組でロールプレイを行う。
	⑤快適な居住環境整備 講師：田中洋美	3時間	《講義内容》 ・快適な居住環境に関する基礎知識について学びます。 ・高齢者や障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解します。
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 講師：和泉香代子 補助講師：丸岡久美子	6時間	《講義内容》 ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学びます。 ・身体状況に合わせた衣類の選択や着脱、身支度、整容行動、洗面の意義や効果について学びます。 《演習内容》 ・前開き上着の着脱、かぶり上着の着脱、ズボンの着脱、浴衣の交換、顔の拭き方、口腔ケア、ブラッシングによる整え方、手足の爪切りの手順等を学び、2人1組となり衣類の着脱の介助を行い合います。また、シーツ交換を行います。

<p>⑦移動に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 講師：丸岡久美子 補助講師：鶴岡綾子</p>	<p>6時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について学びます。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位交換（水平移動〔手前から奥へ、奥から手前へ〕、上方向への移動、仰臥位から側臥位へ、仰臥位から端座位へ、端座位から立位へ）と ・車いすを押す介護（平地走行、段差を上がる・下がる、坂を上がる・下がる） ・移乗の介護（ベッドから車いすへ、車いすからベッドへ、車いすからトイレ（洋式）へ、トイレ（洋式）から車いすへ） ・杖なし歩行の介助（平地歩行、階段を上がる・降りる） ・杖を使用した歩行の介助（平地歩行、段差を上がる・降りる、階段を上がる・降りる） ・視覚障害者の歩行介助（誘導の合図・誘導時の基本姿勢の手順の確認、階段を上がる・降りる） ・2人1組となり実際に行います。
<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 講師：影山順子 補助講師：平井睦子</p>	<p>6時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について学びます。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事介護の技法（姿勢について〔テーブル、車いす、ベッドに座って、ベッドに寝て〕） ・食事介護（自立度が高い場合、一部介護を要する場合、全介助を要する場合、認知症の症状がある場合、視覚障害がある場合） ・食事に關した福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの方法と留意点、義歯の洗浄と保管 ・2人1組となり、片麻痺の方を想定して、持参した自身の弁当などの食事の介助を行います。
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 講師：和泉香代子 補助講師：佐野麻美子</p>	<p>6時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を学びます。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭（全身の拭き方、身体の支え方） ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ・足浴、手浴、洗髪（ケリーパッド使用してベッド上での洗髪） ・入浴介助（安全・安楽にできる工夫、環境づくり） ・2名1組となり、座位での足浴の清潔介護、片麻痺の方を想定して入浴介助を行います。

	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 講師：野澤祐子 補助講師：網屋正子	6時間	《講義内容》 ・排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を学びます。 《演習内容》 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法(ポータブルトイレでの排泄介助) ・テープ止め紙おむつ・パンツおむつとパッドの交換 ・陰部洗浄(臥床状態での方法) ・一部介助を要する利用者の尿器の介助(男女) ・2名1組となりベッド上でオムツ交換の介助を行い合います。
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 講師：網屋正子 補助講師：野澤祐子	3時間	《講義内容》 ・睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を学びます。 ・環境の整備や安眠のための介護の工夫を学びます。 《演習内容》 ・就寝時の安楽な姿勢の介助(仰臥位・側臥位・半座位・端座位) ・褥瘡予防の体位交換(仰臥位→側臥位) ・睡眠障害時の工夫の一つとして、手浴を交互に行う。 ・シーツ交換を行います。
	⑫死に行く人に関したところとからだのしくみと終末期介護 講師：上野善則	3時間	《講義内容》 ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援について学びます。 《演習内容》 ・事例検討について、①利用者の最後の3ヶ月をどのようなことを大切に支援するのか、②介護職として、家族に対してどのように支援したらよいと思うか、グループで話し合い、発表しあいます。
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解 講師：網屋正子	4時間	《講義内容》 ・介護過程の目的、意義、展開について学びます。 ・介護過程におけるチームアプローチの重要性について学びます。 《演習内容》 ・検討事例にもとづいて、介護計画書(個別援助計画)を各自が作成して、発表する。
	⑭総合生活支援技術演習 講師：野澤祐子 補助講師：近藤信子	6時間	(事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指します。 ・「総合生活支援技術演習計画書」による演習を行います。
実習		12時間	・通所事業所で利用者に対しての食事、入浴、排泄、移乗等の介護を行います。(8時間) ・利用者とのコミュニケーションを学びます。
合計		76時間	
10 振り返り(4時間)			

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り 講師：片山芳子	3時間	《講義内容》 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶことについて、研修全体を振り返ります。 ・根拠に基づく介護についての要点を確認します。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修 講師：片山芳子	1時間	《講義内容》 ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるように、事業所等における事例を紹介します。 ・キャリアパスの制度等について紹介します。 《演習内容》 ・受講者各自に、初任者研修を受け、見学や実習を踏まえて介護者の業務のイメージができたか、自分はどうのような介護福祉士になりたいのか、レポートを書いてもらいます。
合計	4時間	
独自科目（3時間）		
参加型福祉の実践（追加） 講師：網屋正子	2時間	ワーカーズ・コレクティブの成り立ちや働き方理念について学びます。また、神奈川の中での規模や実態を通して、概略をつかみます。参加型福祉と他とは何が違うのか野理解を深めます。
新しい働き方で、地域福祉を豊かにする（追加） 講師：木村満里子	1時間	ワーカーズ・コレクティブという雇用されない新しい働き方を通じて、地域づくりを行っている実態を学び、ワーカーズ運動への理解を深めます。
カリキュラム合計時間	134時間	